

シグマ研究委員会 JENDL 積分評価 W.G  
コバリアンス S.W.G. 1984 年度第 1 回会合議事録

1. 日 時 1984 年 4 月 27 日 11:00 ~ 17:30
2. 場 所 原研本部 第 4 会議室
3. 出席者 松延(住原工), 飯島(NAIG), 瑞慶覧(日立), 佐々木(MAPI)  
菊池, 長谷川(原研)

4. 配布資料

JENA-84-C1 : 菊池 ; ORNL 26 group Fast Reactor Benchmark  
Covariance Matrix Library

JENA-84-C2 : 飯島 ; 共分散値の縮約

5. 議 事

1. ORNL-DLC/44 covariance data
  - JENA-84-C1 に基き, ORNL-DLC/44 について菊池氏より説明があった。
  - ORNL-DLC/44 とその付属コード COVERX を RSIC から入手し原研の FACOM にかかるようにした。
  - 26 群の covariance については詳しい report がない。
  - 11 核種, 58 quantities で 159 の matrix が含まれている。
  - それらの内今回の作業に不必要なものも多い。
2. 群縮約について
  - JENA-84-C2 に基いて飯島氏より説明があった。
  - 26 群を一回多数群にしてから 16 群にする。
  - その際の相関は 26 群内では 1 と考える。
  - 一般に相関はかなり強いと仮定しないと, 誤差の過小評価につながる。
  - 今回の 26 群と 16 群は境界の重なる場合が多く縮約は容易である。

### 3. 今後の作業

- 必要な matrix 54を選定し, 26群の基本ライブラリーとする。
- COVERXの formatを工夫して作業し, JAERI-memoとする。その際 relative covariance と correlation coefficient と両方でまとめる。
- 縮約法はさらに検討した上で, 原研でコードを作成する。
- 16群の covariance matrix は RSICに feedback してやると良い。